

第17回図書館利用教育実践セミナー in 京都 館種を超えた図書館利用教育のスタンダードをめざして
2012年(平成24)年3月10日(土) 9:30～13:00

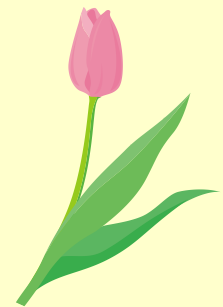
公共図書館と情報リテラシー教育 ー実践のヒントを考えるー



神奈川県立図書館
高田 淳子

本日の予定

- (1) はじめに
- (2) 利用教育から情報リテラシー教育へ
- (3) 公共図書館の現況
- (4) 公共図書館と情報リテラシー教育
- (5) 実践のヒントを「考える」
- (6) サービスの可能性 —理論と実践—
- (7) 参考文献



(1)はじめに 神奈川県公共図書館

■ 公共図書館の設置状況 75館

- ・ 県立の図書館 2館
- ・ 市町村図書館 73館

『神奈川の図書館 2011』 神奈川県図書館協会 2011 より
神奈川県図書館協会 <http://www.klnet.pref.kanagawa.jp/kla/>

◆ 神奈川県立の図書館 <http://www.klnet.pref.kanagawa.jp/>

○ 神奈川県立図書館(紅葉ヶ丘)

社会・人文系リサーチ・ライブラリー

社会・人文系、神奈川に関する資料、視聴覚資料などを収集・提供

○ 神奈川県立川崎図書館

科学と産業の情報ライブラリー

自然科学・工学・産業技術系の資料を中心に収集・提供

(2) 利用教育から情報リテラシー教育へ

— 高校の学校司書だった頃考えたこと —

■ 図書館の中でできること

- 行きたくなる、居心地のいい図書館 → 広報・環境整備
- 使いやすい図書館 → 見やすく探しやすい配置、適切な案内の表示
- 必要な本がある図書館 → 資料の収集・整理
- 自館にない本や情報源の情報提供をする。 → レフェラルサービス
- 図書館の使い方を知ってもらう。 → 図書館オリエンテーション・広報
- 具体的な質問にあった資料を提供・回答する → レファレンスサービス



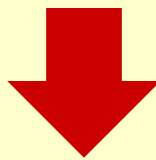
卒業した後の生徒は・・・
図書館の使い方を知らないまま大人になる人も・・・

- ★ 図書館の存在を知り、
図書館の利用方法を知るだけでなく、
必要な情報を自分で獲得できる方法(調べ方など)を学ぶことが重要。
→ 図書館ができることは？ **生涯学習・・・「情報リテラシー教育」**

(3) 公共図書館の現況



- 「情報」はわかるが「リテラシー」とは？
- 図書館利用教育との違いは？
- どの図書館でも必要なサービスなのか？
- 公共図書館全体の状況は？
 - 手っ取り早く参考にできるような図書館は？
- 課題解決支援サービスは以前から取り組んでいるが…



- 「情報リテラシー教育」の捉え方(定義、利用教育との関連など)
- 公共図書館の実践の現況
- 課題解決を支援するサービスとの関連

(3) 公共図書館の現況 調査から－1

『公共図書館における図書館利用法・

情報の探し方講座などについての調査』

- 情報リテラシー教育の現況を把握 → 郵送による質問紙調査
- 調査対象 : 都道府県立図書館及び、政令指定都市の市立図書館(中央館)
- 調査期間 : 2006年8月21日～9月8日
- 対象とする情報リテラシー教育関連サービス実施時期 : 2005年4月～2006年8月
- 回収率 : 都道府県立図書館→調査対象館数59館中53館(89.8%),
政令指定都市立図書館(中央館)→調査対象館数16館中15館(93.8%)

* 調査の名称

→ “情報リテラシーという言葉が公共図書館全体に共通の用語として十分定着していないことを配慮し、「公共図書館における図書館利用方法・情報の探し方講座などについての調査」とした。”

(3) 公共図書館の現況 調査から－2

■ 調査項目の概要

- ・「図書館利用教育ガイドライン－総合版－」をベース
 - ① 図書館案内に関連するもの 〈サービス案内〉
 - ② 図書館で実施する講座 〈情報探索法・情報整理法・情報表現法〉
 - ③ webページ上での情報リテラシー教育関連項目
 - ④ 情報リテラシー教育について注目すべき活動を行っている図書館

■ 調査結果の概要

- ・ サービス案内 → 提供すべきサービスとして共通理解
- ・ 図書館活用講座, 情報検索講座, IT講座など
 - 今後実施したいというニーズも高い。利用者のニーズもある。
- ・ 都道府県立図書館と政令指定都市立図書館の差異
- ・ 定義や内容の捉え方 → 今後の課題

(4) 公共図書館と情報リテラシー教育 ①アメリカ

■ アメリカ図書館協会 (American Library Association: ALA) の報告書 (1989年)

「情報リテラシー」(information literacy)

“情報が必要なとき、それを認識し、効果的に発見、評価、活用する能力”

『変わりゆく大学図書館』 勁草書房 2005

p44 「第4章 大学図書館と情報リテラシー教育

2.1情報リテラシーをどうとらえるか」 野末俊比古 より



(4) 公共図書館と情報リテラシー教育 ②日本の図書館

- 『図書館情報学用語辞典 第3版』丸善 2007 p111
「情報リテラシー」(information literacy)

“さまざまな種類の情報源の中から必要な情報にアクセスし、アクセスした情報を正しく評価し、活用する能力。”

- 『図書館利用教育ガイドライン合冊版 : 図書館における情報リテラシー支援サービスのために』日本図書館協会図書館利用教育委員会編
日本図書館協会 2001 p74
「用語解説(五十音順)」 「情報リテラシー」

“情報探索法・整理法・表現法などを含む総合活用能力。コンピュータ利用能力だけでなく、情報の評価および情報倫理の理解も含めて、あらゆる情報の活用が可能な能力をいう。図書館利用能力も大きな部分を占めている。最近、実業界ではビジネスリテラシーという言葉が使われているが、情報リテラシーはその基本的な部分である。”

(4) 公共図書館と情報リテラシー教育 ③文部科学省

■文部科学省

「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準」(2001年 平成13年)

“2 市町村立図書館

(5) 多様な学習機会の提供

②住民の情報活用能力の向上を支援するため、講座等学習機会の提供に努めるものとする。

3 都道府県立図書館

(1) 運営の基本

④都道府県立図書館は、図書館以外の社会教育施設や学校とも連携しながら、広域的な観点に立って住民の学習活動を支援する機能の充実に努めるものとする。”

(4) 公共図書館と情報リテラシー教育 ④『これからの図書館像』

『これからの図書館像 地域を支える情報拠点をめざして』（報告）
これからの図書館の在り方検討協力者会議 2006

■「第2章 提案 これからの図書館の在り方 (2)社会の変化」 p10

“インターネットの利用機会や活用能力には相当の格差があり、その是正を図るため、公共機関や、利用機会の提供や情報リテラシー教育（注3）を行うことが必要となっている。”

“ * 注3)情報リテラシー:さまざまな種類の情報源の中から必要な情報を検索し、アクセスした情報を正しく評価し、活用する能力“

(4) 公共図書館と情報リテラシー教育 ④『これからの図書館像』

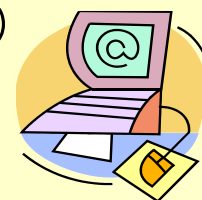
■「(3) 課題解決支援・情報提供機能の充実」 p13

“これからの図書館には、住民の読書を支援するだけでなく、地域の課題解決に向けた取組に必要な資料や情報を提供し、住民が日常生活をおくる上での問題解決に必要な資料や情報を提供するなど、地域や住民の課題解決を支援する機能の充実が求められる。”

(4) 公共図書館と情報リテラシー教育

■なぜ、公共図書館で情報リテラシー教育が必要か？

- ・情報化社会（メディアの多様化・高度化 インターネット など）
- ・生涯学習社会



■「利用教育」から「情報リテラシー教育」へ

“「図書館の使い方」を理解，習得するために提供されるサービス”



“利用者の「自立」，すなわち情報リテラシーを身につけることをめざし，「図書館以外」での情報活用までを視野に入れた指導が展開”

『図書館ハンドブック 第6版 補訂版』 日本図書館協会 2010 p92
「第Ⅱ章 図書館サービス D. 利用教育」

(4) 公共図書館と情報リテラシー教育

■ 情報リテラシー教育

- ① (図書館の)印象づけ
- ② サービス案内
- ③ 情報探索法
- ④ 情報整理法
- ⑤ 情報表現法 (情報発信)



<★情報のサイクル>

★公共図書館でできること

いろいろな方法で、日常のサービスに織り込みながら

『図書館ハンドブック 第6版 補訂版』 日本図書館協会 2010 p94
「第二章 図書館サービス 表Ⅱ-Ⅳ4 利用教育の目標」

(5) 実践のヒントを「考える」 参考例

- 利用案内
- 掲示 展示
- 図書館ツアー
- 調べ方案内の作成
- ショートセミナー 「OPAC検索講座」「データベース入門」 など
- 講座 例 「法令の探し方ー日本の法令(法律など)の探し方の基本ー」
「美術資料の調べ方入門」「漢詩の調べ方入門」
その他 レポートの作成方法、図書館活用講座、宿題の支援、
地域資料の調べ方、健康情報・ビジネス支援関連 など
⇔ 人の暮らしとニーズ
- 図書館招待やその他の講座との組み合わせ
- 出前講座 学校 など
- ★ 利用者へのアピール: ○「言葉の力」の重要性 ○チラシの効果的な作り方

(5) 実践のヒントを「考える」 ★「言葉の力」

■ 図書館

「図書館の達人」 「〇〇名人」 「〇〇王」

「図書館：書庫探検ツアー」 「図書館のお宝大公開」

「ビジネス講座 :15分でわかる！ データベース入門」

「なかみが見える！ 調べ方がわかる本の福袋」

「夏休みの宿題応援隊」 「就活 支援講座」 「レポートの作成 入門講座」

■ 応用編

福井県立図書館 「覚え違いタイトル」 → 県民公開講座

<http://www.library.pref.fukui.jp/reference/mosikasite.html>

レファレンス協同データベース未解決事例 「継続は力なり」 → 県民公開講座

■ 本や雑誌のタイトル、電車の吊り広告、新聞の広告など

「自分磨きの図書館術」 「よくわかる・・・」 「すぐ役に立つ・・・」

「おもしろくってためになる・・・」 「〇分でわかる・・・」

(5) 実践のヒントを「考える」 講座の事例

■ 参考事例 講座「漢詩の調べ方入門」（「漢詩の探し方入門」）

市町村図書館職員研修：90分（休憩5分） 館内職員研修：60分

県民公開講座：90分（休憩10分） * 対象を変えながら同一年度を実施

本日の予定（県民公開講座）



- (1) はじめに
- (2) よくある漢詩関連のご質問
- (3) 漢詩について
- (4) 日本と漢詩（漢文学）との関係
- (5) 調べる時のヒント
- (6) 調べるにはどうしたら？ -事例をもとに-
- (7) 調べる時の参考になる本やインターネットなど

* 「漢詩の探し方入門 - 漢詩を調べるための本やインターネット -」

(5) 実践のヒントを「考える」 ①サービスの展開

■ サービスの対象

- 年代 : 子ども ヤングアダルト 大人 シニア など
- 内容によって利用対象をわける → 効果・効率

■ サービスの方法

- レファレンスサービス、フロアワークなどの日常で
- 広報 内容: 利用案内、調べ方案内
方法: 掲示、展示、配布物、インターネット
- ショートセミナー、講座
- 学校との連携
- 他の機関との連携(タイアップ講座など)

* 都道府県立図書館、市町村図書館などの中央館の役割

(5)実践のヒントを「考える」 ②サービスの展開

■ サービス計画の流れ

1. ニーズの把握(利用者・サービス内容の範囲など)
→ ターゲットと対応する内容を絞る
2. 実施の内容・方法は？
→ どんな内容をどのような方法で？
実現は可能か？ 施設、費用、人(職員・講師)など？
3. サービスの実施
4. 評価
効果 → 利用者の満足 数値(サービスを受けた人数)
効率 → 費用対効果 <ヒト・カネ・モノ>のバランス
5. 次のサービス展開へ

(6) サービスの可能性 —理論と実践—

図書館サービスとしての可能性

- 利用者が自分の力で必要な情報を獲得する。
 - 暮らしの満足度や教育、仕事などの達成度を高める。
- 公共図書館の役割としての共通認識
 - 課題解決支援サービス
 - 個人の情報リテラシー育成・支援が基盤
- すべての館種に必要なサービス
 - 広い視点で公共図書館のサービスとして何ができるか？

(6) サービスの可能性 —理論と実践—

課題

■ 公共図書館における情報リテラシー教育

- 用語 「情報活用能力」「情報リテラシー」「？」など
- 定義 検討が必要
- 内容 さまざまな実践

■ 公共図書館の共通認識

⇔ ガイドライン、マニュアル などの作成

■ 確立・普及

⇔ 組織として検討

日本図書館協会 図書館利用教育委員会 など

(7) 参考文献

○事典・ハンドブック

『図書館情報学用語辞典 第3版』 丸善

日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編 2007

『最新図書館用語大辞典』 図書館用語辞典編集委員会編 柏書房 2004

『図書館ハンドブック 第6版 補訂版』

日本図書館協会図書館ハンドブック編集委員会編 日本図書館協会 2010

○図書

『図書館利用教育ガイドライン合冊版 : 図書館における情報リテラシー支援サービスのために』 日本図書館協会 図書館利用教育委員会編

日本図書館協会 2001

(7) 参考文献

『情報リテラシー教育の実践 すべての図書館にリテラシーを』

日本図書館協会図書館利用教育委員会編 日本図書館協会 2010

『図書館・図書館学の発展 21世紀初頭の図書館』 日本図書館研究会編

日本図書館協会 2010

『市民の図書館 増補』 日本図書館協会 1976

『これからの図書館像 地域を支える情報拠点をめざして』（報告）

これからの図書館の在り方検討協力者会議 2006

http://warp.da.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/286184/www.mext.go.jp/b_menu/houdou/18/04/06032701.htm

『図書館による課題解決支援サービスの動向 ー地域を支える公共図書館』

高度映像情報センター(AVCC) 2007

(7) 参考文献

『メディア・リテラシー ―世界の現場から―』 菅谷明子 岩波書店 2000

『未来をつくる図書館―ニューヨークからの報告』 菅谷明子 岩波書店 2003

『米国の図書館事情 2007』 国立国会図書館編 日本図書館協会 2008

『変わりゆく大学図書館』 逸村裕, 竹内比呂也編 勁草書房 2005

○雑誌

「公共図書館における情報リテラシー教育の現状」 高田淳子

『現代の図書館』2007.12

「図書館員の情報リテラシー向上のために ―ITを活用した「情報発信」と情報リテラシー支援サービスのこれから」 高田淳子 『図書館雑誌』2005.6

URL最終確認 2012年3月3日

